

英語の現在完了形に関する一考察
—その英語教育への応用—

伊関 敏之*¹

**A Study on Present Perfect in English
— its Application to English Language Teaching —**

Toshiyuki ISEKI

Abstract

In this paper, we will mainly examine the usage of Present Perfect. In this connection, we will especially refer to the comparison of Past Tense and Present Perfect Progressive. In School English Grammar, it is often said that Present Perfect has four usages: completion and / or result; experience; and duration. But making a careful observation about it, its usages overlap with Past Tense and Present Perfect Progressive in many respects. Therefore, we will consider the usage of Present Perfect in various aspects, particularly from the viewpoint of English Language Teaching.

序論

本研究では、*cognitive* な視点を取り入れながら現在完了の用法について考察し、その本質に迫ることを目的とする。現在完了には、完了・結果、経験、継続という3つないし4つの用法があるということは、学校英文法でよく知られていることである。しかし、よく観察してみると、過去時制や現在完了進行形と重なり合う部分も多いことがわかる。事実、アメリカ人は現在完了で言うべきところを過去時制で言うまで述べている本もある (Turney 1988, pp.186-8)。以上のような点について、私見を交えながらいろいろと考察していくことにする。先行研究においてもいろいろなことが述べられており、大変有益な論考が多いが、筆者なりの独自の見解を述べてい

¹ 北見工業大学教授 Professor, Kitami Institute of Technology

るところが特に注目される。今回の論考では、特に英語教育への応用という観点から、ニュースの英語（新聞記事）を使用した実際の教室での指導の現状についても詳細に見ていくことにする。

1. cognitive な視点を取り入れた考え方（私見）

上述の考え方を参考にして、cognitive な視点を取り入れながら考察してみる。私見では、現在完了を図式化すると次のようになる（現在時制・過去時制もあわせて載せている）。

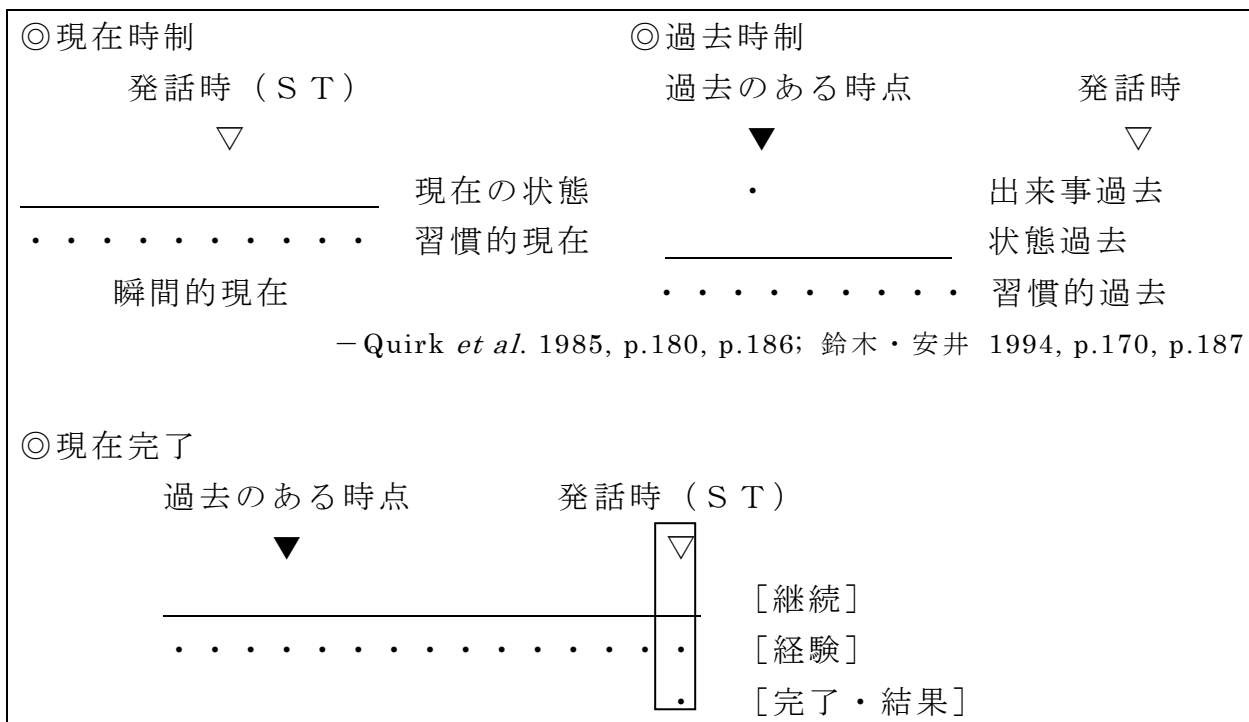


Figure 1. 現在時制・過去時制・現在完了の発話時 (S T = Speech Time) との関係を図式化したもの

現在時制と過去時制の図を基にして、現在完了の図を表してみると上のようになる。この図を見るとわかるように、現在完了で特徴的なのは [] の部分に焦点 (focus) が当てられているということである。その他の部分 (_____ , . . . , . の部分) に関しては、同じ発想でよいということである。これが意味することは、別の言い方で言えば、現在完了は現在時制や過去時制と重なり合う部分も多いということである。

このことを認知言語学の根幹をなす考え方の一つであるプロトタイプ理論を使って図に表すと、次のようになる。

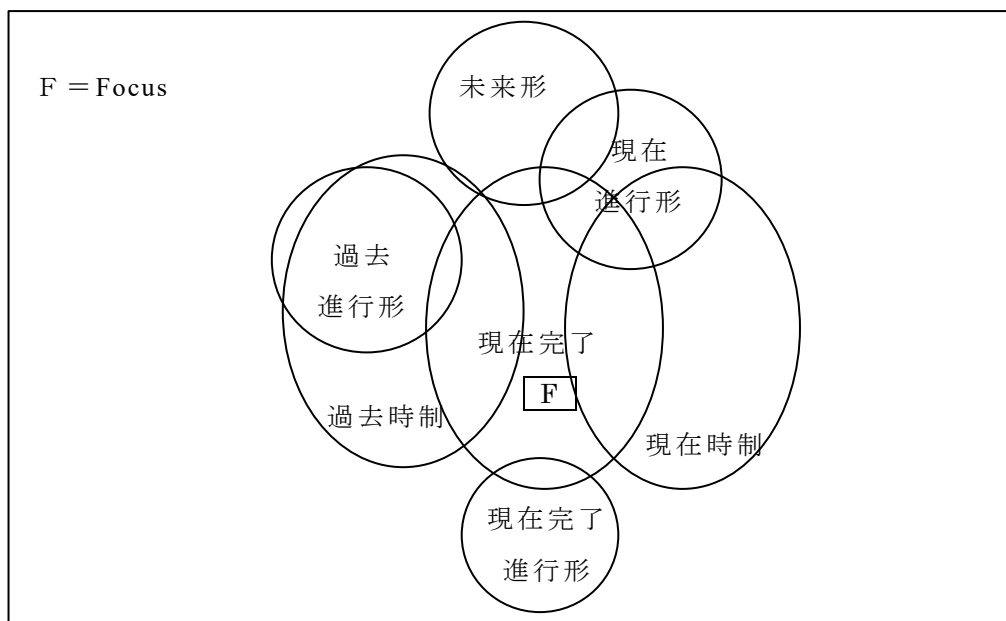


Figure 2. 現在完了を中心にすえた場合のそれぞれの時を表す言い方との関係

以上のような図において、何を中心に据えるかは、筆者の論考における論点によってさまざまである。今回の論考においては、「現在完了形」に関する考察が第一の主眼になっているので、「現在完了形」が当然図の真ん中の位置を占めている。その他、「現在時制」、「過去時制」、「未来形」という基本時制の他に、「現在進行形」、「過去進行形」、「現在完了進行形」というように、「進行形」も加わって重層的に物事を捉えることができるようになっている。

ここでは、「現在完了形」を視点の中心に据えて、その他の形式との接点について、いろいろと考察していくことにする。「認知言語学」の「プロトタイプ理論」の考え方に基づいて言えば、「現在完了形」と「過去時制」に関しては、用法上重なり合う部分が多く、「現在完了形」と「現在完了進行形」も重なり合う部分が多い。ところが、いろいろな要素がすべて同じ程度に重なり合うわけではない（段階性がある）ということに注意する必要がある。

Figure 1. の □ は、ここでは F に相当する（つまり、現在完了のプロトタイプ的な使い方である。そこを中心にしていろいろ overlap しているのがわかるが、特に過去時制と重なり合う部分が多いことに注目する必要がある（ここでは F の部分も過去時制と重なり合っている）。上述のように、今までの見解では、現在完了は過去の状態・動作を関連させながら、あくまでも現在の状態を述べる時に用いられるということであるから、F の部分も含めて過去時制と一番重なり合う部分が多いというのは新しい見方である（この辺の事情については次節で述べる）。

それから、F についてであるが、この中核的な部分が意味することは、

関心は発話時 (S T) にあり (それに至るまでの経緯は _____ でも・・・でも・でもよい)、いずれにせよ何か (断続的に) 継続してきたことが発話時 (現時点) で表出されたものと考えてよい。ただし、言葉は発せられた瞬間にはもうすでに過去のことになってしまうので、どうしても過去時制との接点が大きくなるのである。

従って、そのように考えてくると、現在完了を使うか過去時制を使うかの判断はあまり厳密なものではなく、話者の主観的判断によることが多いということがわかる。

2. 過去時制との接点

現在完了は過去時制と重なり合う部分が一番多いということを上で述べたが、ここでは具体例を通して見ていくことにする。Turney (1988, pp. 186-8) では、アメリカ人は現在完了を過去でいうという項目を設けて興味深い説明をしている。ただし、Turney が問題にしているのは、現在完了の用法のうち完了・結果・経験の用法に限られているので注意する必要がある。つまり、継続用法だけは別に考えなければならないことを意味しているのである (上述の岩垣 1980 でも触れられていた)。なぜそうなるのかというと、以下の例を見ればわかるように、現在完了が過去時制と言い換え可能なのは、継続用法を除いた完了・結果・経験の用法であるからである。

(1) a. Have you eaten lunch yet? b. Did you eat lunch (yet)?

(1 a) はイギリス人が、「ランチ、もうすませた? (まだだったら、一緒に食べない?)」と聞く時に用いることが多い。(1 b) は yet を付けて考えると、「お昼、まだ、食べた?」というへんな表現になる。yet を取った表現に至っては、「お昼、食べ終わった?」であり、過去でもいつの話なのか、漠然としている。つい、When? (先週のお昼のこと? どのランチのことをいつてんだい) と、聞きたくなくなってしまう。イギリス人としては、yet があるからこそ、完了を呼ぶ、セリフが完了になる。ところが、アメリカ人の同僚の言語学者に言わせると、特にユダヤ系アメリカ人は、彼らのイディッシュ語 Yiddish の影響からか、Did you eat lunch yet? と、yet (すでに、もう) を付ければ完了だとわかるから、過去形だっていいじゃないか、となる。なるほど、アメリカ人の手にかかると、英語が単純化されていくなあ、と感心する一方、耳ざわりでも、そんな英語が主流になるのか、少し危惧の念にかられる (Turney 1988, pp.186-7)。

上例の説明からもわかるように、特にアメリカ人においては、過去時制が現在完了と変らない意味で用いられていることがわかるのである。こうなると、問題は主観的

か客観的かということよりも、アメリカ英語かイギリス英語かという社会言語学の領域に近づくことになる。いずれにせよ、上述のような例においては、現在完了で言っても、過去時制で言ってもよいという結論になる。次の例はどうか。

- (2) a. She arrived yesterday. b. She arrived just now. c. She has arrived just now.
d. I just finished my homework. e. I have just finished my homework.
f. Did you ever see a shooting star? g. Have you ever seen a shooting star?

上の(2b~2g)はそれぞれペアになっている。従来の考え方では(2bと2c)のペアについては(2b)の方が、(2d)と(2e)のペアについては(2e)の方が正しいとされてきたが、これらはいずれも正しいことになる。(2f)と(2g)のペアについても同様である。例えば、(2c)の言い方について見てみると、**just now**は明らかに過去を表す語句であるから現在完了とは一緒に用いられないと一般的には言われてきた。しかし、よく考えてみると、日本語でいうほんの少し前も今ちようども時間的にはほとんど差がないということがわかる。従って、(2c)のように、**just now**と現在完了を組み合わせてもOKであるし、(2d)のように**just**と過去時制を組み合わせてもOKだということになる。つまり、従来言われてきたように、過去時制と現在完了の区別がそれほど厳密なものではなく、お互いに重なり合う部分も多いということを示しているのである。ということは、**just, just now, now**のような3つの表現は、用法的にも意味的にもお互いに重なり合う部分が多いということでもある。

- (3) a. He just left. b. He has just left. c. He left just now.
d. He has left just now. e. He has left now. f. *He left now.

さすがに **now** と **left** の組み合わせだった例である(3f)は不可であるようだが、その他はみなOKである。

しかし、たった今(3f)は不可であると述べた(cf. 小西・南出編 2001³, p. 1278)が、(3f)のような表現まで可能であると述べているものもある(cf. 田中・武田・川出編 2003, pp. 1121-2)。

ここでは、次のような説明および例が載っている。「[現時点に隣接する過去・未来]今さっき、たった今；今度は、この次は／ I saw a flash of lightning **now**. 今、稲妻が光った／ I cleaned this table. What shall I do **now**, Mom? このテーブルきれいにしたよ。ママ、今度は何やるの」。

要するに、現在を基点として、現時点に隣接する過去・未来と一緒に **now** を用いてもOKであるということである。従って、この論法でいけば、(3f)のような言い方も可能であるということになる。

N. B. この **now** という語に関して注意すべきことがさらに2つある。

- ① 次のような例では、**now** は過去形と共に用いてもよいとされている。
He was now a national hero. 彼は今や国民的英雄であった。

— 竹林・吉川・小川編 1994⁶, p. 1227

ただし、このような例は [物語の中で] 用いられるとされているので、いわば特殊な状況のもとでの用法であるということが言えるので、上記の説明においては考慮しないこととする。

- ② 英語の **now** と日本語の「今」とでは、カバーする領域が異なっているということである。つまり、日本語の「今」は **now** より対象となる時間が短く、むしろ **at the moment** に当ることも多い (cf. 小西・南出編 2001³, p. 1278) ようである。ちなみに、**at the (very) moment** という語句を同英和辞典で調べてみると、次のように書かれている。「[現在時制で] 今のところ；ちょうど今；[過去時制で] ちょうどその時」。現在時制と過去時制とにまたがって用いられるということは、**at the (very) moment** という語句は日本語の「今」よりも使用範囲が広いということが言えよう。「今」→ **at the (very) moment** → **now** の順に、使用範囲が広がっている。つまり、日本語の「今」は、上記の訳語の「ちょうど今」とほとんど同じ使われ方しかしないということになるであろう。このように見てくると、英語の **now** という語の使用範囲の広さが、取りも直さず上記 (3c) ~ (3f) までに至る例文での使われ方に反映されているということがわかるのである。

上述の説明からもわかるように、過去時制と現在完了の区別がそれほど厳密なものではなく、お互いに重なり合う部分も多いということが例証されたのである。このことを、鈴木・安井 (1994, p. 278) では、過去時制が現在完了相と同じ意味で用いられる例も存在するとして、次のような例を挙げて、興味深い説明をしている。

(4) a. I saw him a moment ago.

b. I've just seen him.

(5) a. He went a moment ago.

b. He's just gone.

— Palmer 1974, p. 77

「(4a) - (5a) の過去時制と (4b) - (5b) の現在完了相の文とが同じ意味を表すということは、いずれの形式も、同じ状況を正しく指し示すのに用いられるということである。(4a) - (5a) のように、過去時制の文に **a moment ago** が用いられていると、その出来事が起った時は、現在に限りなく近づくことになる。つまり、現在に限りなく近い過去は、現在とか

かかわっているという現在完了の意味と、限りなく「同じ」になるのである。I knew など、それを忘れるということが介在しにくい事柄であれば、過去時制の I knew が成り立っていれば、I know という現在時制、あるいは I've known という現在完了相が成り立っているということになる。このように、過去時制と現在完了相とが限りなく「同じ」意味を表しうるという場合はあるが、そのような場合であっても、過去時制と現在完了相とがまったく等価であり、区別がなくなるということではない。と書かれている。確かに、過去時制と現在完了相というお互いに異なった表現形式がある以上、両者が本質的にまったく等価になるということは現実にはないであろう。しかし、実際においては、そのような使われ方がしていることも、今までの説明から明らかである。両者の本質を理解し、どこまで用法が overlap しているかを検討していくことが今後必要である。

3. 現在完了進行形との接点

(6) a. I have been studying English for ten years.

b. I have studied English for ten years.

従来の一般的な英文法書では、「[動作動詞] を使って「継続」の意味を表すには現在完了進行形にする」というのが普通の説明である。

ここでも今まで一般的に言われてきた説に反して、(6 b) のような言い方も OK であると筆者は主張する。事実、ネイティブ・スピーカーに確認したところほとんど違いがないそうである (Phillip J. Robberson 氏の御指摘による)。

江川 (1994¹⁴, p. 41) には、次のような記述がある。「<注意> 上のように現在までの動作の継続を表すには動作動詞の完了進行形を使うが、一部の動作動詞は単なる完了形でもよい。We have studied / have been studying English for three years. 単なる完了形か完了進行形かによって微妙な差はあるが、諸君自身の英語としては「動作の継続は完了進行形」ということにすればよい。」とある。一部の動作動詞とは何なのか、また微妙な差はあるとあるが、それはどのようなものなのか、ここでは述べられていない。さらに、江川 (1991³, pp. 241-2) では、もう少し詳しい記述が見られる。

「B. 現在完了と現在完了進行形 次の動詞は現在完了でも継続を表せる。

expect, hope, keep, learn, lie, live, rain, sit, sleep, snow, stand, stay, study, teach, wait, want, work

I have lived / have been living in New York *for the past ten years.*

(ここ 10 年間ずっとニューヨークに住んでいます)

She has learned / has been learning to play the piano *since she was three years old.*

(彼女は3歳のときからずっとピアノを習っています)

I have long wanted / have long been wanting to visit Naples.

(長い間ナポリを訪れたいと思っていました)

《参考》これらの動詞の現在完了は、期間を示す副詞語句がないと継続の意味を表すことができない。

I have (already) learned 4,000 English words. <完了>

([もう] 英単語を4千語覚えました)」とある。

ただし、動作動詞の場合は、たとえ“発端”や“期間”を示す副詞(句・節)がついていても、‘have +p.p.’は、例えば、**I have learned English for five years.** (私は五年間英語を習ってきました。[現時点までの経験] / 私は五年間英語を習ったことがあります。[過去の経験]) のようになり、決して「継続」の意味にはならない。「継続」を表したければ、**I have been learning English for five years.** (私は五年間英語を習っています。) としなければならない。」と主張している学者もある (cf. 岩垣 1980, p.62)。

解説 B. 各例とも、単なる現在完了と現在完了進行形との間に差があるかどうかは問題になるが、大体において差はないと考えてよいであろう。ただ、上にあげた動詞の中でも *lie, sit, stay, wait* など通例あまり長くない継続動作を含意する動詞には、現在完了進行形が好まれる (Leech, *Meaning*, §77)。つまり、次の例では明らかに b) の方が自然である。

a) **I've sat** here all afternoon. (午後ずっとここに座っていました)

b) **I've been sitting** here all afternoon. (同上)

これらの動詞の現在完了は期間を示す副詞がなければ継続を表せないと言ったが、逆に現在完了進行形はそういう語句がなくても継続の意味を表す。これは継続を表す現在完了と現在完了進行形との大きな相違点と言えよう。

The road is wet, because it **has been raining**.

(ずっと雨が降っていたから、道がぬれている)

Cf. The road is wet, because it **has rained** this morning.

(けさ雨が降ったから、道がぬれている)

—江川 1991³, p.242

上記下線部のような説明は、確かに継続を表す現在完了と現在完了進行形との大きな用法上の相違点となっはいるが、それでもなお両者の(微妙な)意味の違いを説明したことにはなっていないのである。

強いて両者の違いを説明すれば、次のようになるであろう。

- ① *I have lived here for three years.* と *I have been living here for three years.* との間に実質的には大した違いはない。その間の違いは、*I live* と *I am living* とのそれと同じく、*have been living* の方が叙述がより生々としていて、ときに感情的色彩が加わるということであろう (cf. 太田 1954, p. 66)。
- ② *The Browns have lived in that house since their marriage.* と *The Browns have been living in that house since their marriage.* という2つの文の違いについて—2番目の表現は、話し手が一時的とみなす状況を描写している；従って、ブラウン夫婦が結婚したのはそんなに前のことではないということを暗示している (cf. Leech, 1987², p.49)。
- ③ *I have studied English for five years.* と *I have been studying English for five years.* という2つの文の違いについて—前者は〔完結〕後者は〔未完結〕を含意する。従って、前者では現時点よりも先に英語の勉強をするという含意は必ずしも含まれておらず、やめてしまっても構わないわけであるが、後者ではこれから先も継続して英語を勉強していくという含意があるということである。

ただし、この違いは微妙なものらしく、両者には違いはほとんどないと言っているネイティブ・スピーカーもいる (Phillip J. Robberson 氏の御指摘による)。

以上のような、3つの違いをどの程度まではっきりと認識するかは、話し手の主観によるところが大きいと思われる。

4. 実際面での検証 (大学英語教育における実践例)

以下に掲げる5例は、筆者の勤務している大学での英語教育の実践例である。いずれも「北海道新聞」(以下、「道新」と呼ぶ)に掲載された記事である。本文が比較的扱いやすい分量となっており、内容に関してとても示唆的である。合計5つの記事について見ていくことにする。

4. 1. 「木村花さんについての記事」

Hana Kimura, a professional wrestler who appeared in the popular reality TV show “Terrace House,” died at 22 on May 23, in a **suspected suicide**. She had been a target of online **bullying** over her **remarks** and **behavior** in the show.

“Nearly a hundred **frank** opinions every day. I couldn’t deny they hurt me,” Kimura tweeted shortly before her death.

The show was documenting the lives of young men and women living in a shared

house. The program has now been cancelled. (下線部は筆者。)

テレビの人気リアリティー番組「テラスハウス」に出演したプロレスラーの木村花さんが、5月23日に22歳で死去した。自殺とみられている。木村さんは番組での言動をめぐってネットいじめの標的になっていた。

木村さんは亡くなる直前「毎日100件近くの率直な意見。傷付いたのは否定できなかった」とツイートしていた。

番組は、シェアハウスで暮らす若い男女の生活を記録していた。番組は打ち切りとなった。

【ポイントの単語など】

・suspected「～の疑いがある」・suicide「自殺」・bullying「いじめ」・remark「発言」・behavior「振る舞い」・frank「率直な」・deny「否定する」・document「記録する」

以上が、「道新」記事の配列である。

なお、講義の際には、上記の【ポイントの単語など】とその上の日本語訳を空白にしておいて、講義中に「辞書」を使って埋めていく作業をさせ、その後、筆者の「解説」という手順で進行していく。ただし、一方的な解説にはならないように、毎回の英文の内容についても意見を交わしながら、トータルでの「読解力」の養成を目指している。つまり、英語・日本語ともに、内容の理解を深め、自分の考えをしっかりと持つためのトレーニングの場にもなっている。最後に、「音読」および「シャドーイング」も行って、英語音声面での理解促進にも努めている。

◎ 講義のポイント

① 進行形も含めて過去形が5か所、「過去完了形」が1か所（自殺までの間に、ネットいじめの標的になっていたので、使われている）。

② 最後の文において、「現在完了形」で締めくくられている。これはなぜかというと、いろいろと上記のような事実があったことを「過去形」表現してきて、その結果として「番組は打ち切りになった」という箇所を「現在完了形」で表現している。つまり、「当然の帰結」としての最後の英文の内容が現在までずっと影響力を持ち続けていることがわかるのである。換言すれば、過去における事実を「過去形」で表現しておき（つまり、小見出し）、最後の結論部分（つまり、大見出し）を「現在完了形」で表現している。表現をうまく使い分けていると言えよう。

4. 2. 「LGBT についての記事」

The U.S. Supreme Court has ruled for the first time that **firing** workers for being **LGBT** is **illegal**. It said that **sexual minorities** are also protected by the

federal law which bans job **discrimination** based on sex.

U.S. media said the ruling is a **historic** victory for LGBT people, **following** the 2015 Supreme Court ruling which made same-sex marriage legal.

The ruling about job discrimination came in response to three **lawsuits** from workers who lost their jobs because they were homosexual or **transgender**.

米連邦最高裁は LGBT であることを理由に従業員を解雇するのは違法だとする初めての判断を示した。性別に基づく職場での差別を禁止した連邦法によって、性的少数者も守られるとした。

米メディアは、この判断は LGBT の人々にとって、同性婚を合法化した 2015 年の最高裁判断に続く歴史的な勝利だと伝えた。

職場での差別に関する判断は、同性愛者トランスジェンダーであることを理由に失職した労働者が起こした 3 件の訴訟の対して出された。

【ポイントの単語など】

・ U.S. Supreme Court 「米連邦最高裁」・ fire 「解雇する」・ LGBT 「LGBT (性的少数者)」・ illegal 「違法」・ sexual minority 「性的少数者」・ discrimination 「差別」・ historic 「歴史的な」・ following 「～に続いて、～に次いで」・ lawsuit 「訴訟」・ transgender 「(心と体の性が一致しない) トランスジェンダー」

◎ 講義のポイント

① ここでは最初に「現在完了形」が用いられている。つまり、最初に一番大切な「結論部分」を持ってきている。「最高裁が初めての判断を示した」と「現在完了形」で述べておいて、その後でいろいろと経過や事実を記述しているというものである。「現在完了形」で最初に表現することによって、「現在までに至る影響」を意味的に含意しようとしていると思われる。この形式は、英語（欧米）の発想に合致したものであるというのが私見である。

② 内容に関しても、賛否両論が出てきており、興味深いニュースである。

4. 3. 「原爆投下についての記事」

An American newspaper has carried an opinion **piece** by two **historians** who claimed **atomic bombings** were unnecessary to end World War II.

According to the authors, President Truman knew that the Soviet **entry** into the war would soon make Japan **surrender**, and therefore that they didn't have to drop **A-bombs**.

The U.S. government has been **justifying** the bombings, saying they saved millions of American and Japanese lives by ending the war. Recent **surveys** show, however, that an increasing number of young people think the bombings were wrong.

原爆投下は第2次世界大戦を終わらせるのに必要なかったとする2人の歴史家の寄稿記事を、米国の新聞が掲載した。

筆者によると、トルーマン大統領は、ソ連の参戦によって、間もなく日本は降伏すること、そのため、原爆を投下する必要はないことを認識していた。

米政府は、戦争を終わらせることで何百万もの米国人と日本人の命を救ったとして、原爆投下を正当化してきた。しかし、最近の調査では、原爆投下は誤りだったと考える若者が増えている。

【ポイントの単語など】

・ carry 「掲載する」・ piece 「記事」・ historian 「歴史家」・ atomic bombing 「原爆投下」・ A-bomb 「原爆」・ justify 「正当化する」・ survey 「調査」

◎ 講義のポイント

① 前回同様今回も、最初に「現在完了形」を用いている。つまり、2人の歴史家による寄稿記事が掲載されたことが、その後の主張に対してずっと影響を及ぼしているということを暗示していると筆者は考えている。まさに、「現在完了形」の独壇場である。英語の発想に基づいた論理の展開である。

② 英文中の4行目にある they については、学生は誰も正解を出せなかった。ここでは、もちろん [権威の they] の用法である。

③ 「米政府は原爆投下を正当化してきた」は「現在完了進行形」。過去から現在においてずっとそうであるし、これからもそうであるということを暗示している。

④ 日本とアメリカでは、「原爆投下」という史実に対して当然見方が異なるということが予想される。特に、注目すべきなのは、同じアメリカ人においても、若い世代になればなるほど、「原爆投下は誤りだった」と考える傾向にあるということは、興味深い。

⑤ 今回の記事が、一番学生との間で熱い議論が交わされることになった記事である。現在の世界情勢に鑑みてもその感が強い。「ロシアによるウクライナ侵攻」「ロシアによる核の脅し」等、今や対岸の火事ではなくなっている。「原爆投下」は、もうすでに80年余り前の出来事であるが、今まさにタイムリーな内容であると言えよう。

4. 4. 「日本航空の英語でのアナウンスについて」

Japan Airlines has stopped **addressing** passengers as “ladies and gentlemen” when making English announcements on flights and at airports. Instead, it has begun using **gender-neutral** expressions such as “all passengers” or “everyone.”

The change intends to respect **sexual minorities** who don't fit in the **categories** of male or female. “We have been using **terms** based on genders without

consideration. We want to create an environment comfortable for all passengers,” a JAL official said.

There is no change in Japanese announcements since the greetings are already gender-neutral.

日本航空は、機内や空港で英語のアナウンスをする際、搭乗客に「レディー・アンド・ジェントルメン（紳士淑女の皆さま）」と呼び掛けるのをやめた。代わりに「オール・パッセンジャーズ（ご搭乗の皆さま）」や「エブリワン（皆さま）」など、性の区別がない表現を使い始めた。

男性か女性かという区分になじまない性的少数者に配慮した変更だ。日航の担当者は「無意識に性別を前提とする言葉を使っていた。これからは誰もが利用しやすい環境をつくりたい」と話した。

日本語のアナウンスでは、前からあいさつに性の区別がないため、変更はない。

【ポイントの単語など】

・ address 呼び掛ける」・ gender 「性別、ジェンダー」・ gender-neutral 「性の区別がない」・ sexual minority 「性的少数者」・ fit in 「うまくはまる、調和する」
・ category 「区分」・ terms 「表現」・ consideration 「考察、配慮」

◎ 講義のポイント

① ここでは、「現在完了形」が2文にわたって用いられている。「古い呼び掛けをやめた＋新しい呼び掛けを使い始めた」ということであるので、2つをワンセットにした論理の展開になっており、その結果・影響が現在まで残っていることを含意する「現在完了形」が最適であろう。

② 英文の5行目に、We have been using terms based on genders without consideration. という文がある。「無意識に性別を前提とする言葉を使っていた」という訳がなされていた。

この部分に関しては、英語の表現、日本語の訳ともに、筆者は違和感を覚える。「性別を前提とする言葉を今までは使ってきたが、今は使っていない」というのがこの場面での真意であるから、「現在完了進行形」は不適切である。

例えば、I have been studying English for ten years.（私は10年間ずっと英語を勉強してきている）は「10年前から英語を初めて、今も英語を勉強している」という意味だからである。この考え方に基づけば、上例は「無意識に性別を前提とする言葉をずっと使ってきており、今も使っている」という意味に普通は解釈されてしまうからである。

学校英文法の基本的な考え方からすれば、少し腑に落ちないところがある

が、真偽は不明である。

4. 5. 「道新の記事全体を通しての感想」

① 「関係詞」が多用されている。この4つの記事だけでなく、より多くの記事を見て言えることである。最近の英語教育においては、「話すこと」に力点が置かれる傾向にあり、「読むこと」が軽視されている感がある。学校で「関係詞」をいくら学んでも、話せるようにはならないというのが本音であろう。ところが、NHKのラジオ英会話を聞いていると分かる通り、「関係詞」は頻出しているのである。日常会話には不可欠な「文法項目」であると言えよう。何も受験英語のためだけではないのである。さらに、上記の記事の中には、「分詞構文」が2箇所で見受けられる。これらが使いこなせるようになると、英会話も中・上級レベルに達するであろうというのが私見である。

② 今回は扱わなかったが、新聞記事によっては、最初から最後まで「過去形」で押し通している記事もいくつかあった。これはどういうことだろうか？本稿の論点の1つに、「過去形」が「現在完了形」の代用をするということがある。つまり、記事の筆者によっては、本来ならばまさに「現在完了形」を使うべきところに、「過去形」を無意識のうちに使っているということもありうるのではないだろうか。また、上述の記事のように、両者をうまく使い分けている記事も多数ある。最近では「現在完了形」が衰退しつつあるということをよく耳にするが、本当に存在意義がなくなったとは筆者には思われない。上記の記事を見れば、よく分かることである。

5. 結論

以上の議論から、問題点として挙げた *just now* は実は過去時制だけではなく、現在時制でも現在完了でも使用可能であるというわけである。また、現在完了は過去時制と用法的にも意味的にも重なり合う部分が多いことがわかり、その他現在完了進行相、現在進行相、現在時制などとも重なり合う部分があることを例証してきた。

歴史言語学的に見ると、姉妹言語であるドイツ語と同じように、過去時制との区別があまりつかなかったところからスタートして、過去時制とは明確な違いがある英語独自の現在完了形を発達させてきた。その辺の事情については、中尾(1979)、中尾・児馬編(1990)、中尾著、児馬・寺島編(2003)などを参考にするとよい。

しかし、最近では、継続用法を除く用法(完了・結果、経験)のすべてに渡って、過去時制との区別がなくなってきている。つまり、現在完了形と過去時制とを意味の区別なく使う傾向があると言えよう。従って、意味的には、

昔の現在完了形に少し逆戻りしているということになるので、とても興味深い現象であると結論できる（**回帰現象**）。

このような言葉の回帰現象は、特に語彙の面でよく起っているようである。例えば、日本語を一つ例に取ってみよう。それは、「エロ」ということばの意味変化である。80年前「エロ」は、超イケてる言葉だったようである。つまり、いい意味で使っていた。その後、周知のごとく、「あまりよろしくない意味合いの言葉」として定着していった。しかし、21世紀になると、「エロ」は再び意味に関しては「良化」の方向に向いてきていると言えるであろう（cf. 伊関 2011, p. 190）。文法（統語論）の分野でも、このような回帰現象が起ったとしても不思議なことではないと思われる。

この小論では、現在完了形には2用法があるという考え方を支持する。Bolinger の言うように、1用法で十分であるという考え方の妥当性を検証し、2用法説と比較検討することが筆者にとって今後求められる一番の課題である。その際には、継続用法の扱い方および考え方がポイントになることは言うまでもない。

例えば、田中・佐藤・河原（2003, p. 74）には、次のような例がある。

「*A bad cold has been annoying me for more than a week.*

（ひどい風邪で1週間以上悩まされている）〈継続〉

確かに、現在完了形のかわりに過去形で済ますことができる場合も多いけれども、継続の用法だけはそうすると意味が変わってしまう。上述の例文で、*was annoying* を使うと、現在と切り離された過去のことになって、今は元気なんだろうという感じになってしまう。」

と書かれている。つまり、継続用法だけはその他の用法と別扱いすべきであるという主張を支持する一例であると言えよう。

6. 問題点および今後の課題

少なくとも次の6つが考えられる。

- ① 今まで例証してきたように、現在完了を中心として過去時制、現在完了進行相、現在進行相、現在時制などのお互いにパラフレーズ可能であるとされている表現同士が、どこまでほとんど意味に違いをもたらすことなく使用することができるのかということをもさらに究明していくこと。
- ② 小西（2003, pp.66-9）では結論として、*just now* には現在のところ英米の語法書はもちろん、辞書にも完了形との共起はあげられていないとの理由で、「現在完了形と共に用いる人もあるが、避けた方がよい」との

考え方を示しているが、筆者はこの考え方に否定的である。なぜなら、英米を含む9名のインフォーマントに、**I've just now received word that they've arrived safely.** (ちょうどいま、彼らが無事に到着したという知らせを受けた。) という例を示したところ、全員がOKであると認めたそうである (cf. 柏野 1999, pp.164-5) ので、語法書や辞書に載っていないからといって、**just now** は現在完了と共に用いるべきではないと決めつけるのには問題があると言わざるを得ない。語法書や辞書にそのような使い方が載っていないから、使ってはならないということであろうか。そのような理屈が究極的に進んでくれば、例えば、**Have you ever seen a UFO?** という意味で、**Did you ever see a UFO?** などとは言えなくなってしまうであろう。また、この問題にはアメリカ英語かイギリス英語かというような社会言語学的な視点からの考察も必要とされる面もあるようである。さらには、ネイティブ・スピーカーにおいても個人的にどのような使用の習慣があるのか、あるいはその時の気持ちの持ちようによって無意識的に現在完了と過去時制とを自由に使い分けているという可能性もあり、一概には言えないが、**just now** と現在完了との共起は一般的に認めてもよいと思われる。なお、「**just now** + 現在完了」に関して、**just now** の現れる位置という視点から面白い考察がある。中位 US 83%、UK 39%、後位 US 68%、UK 63%。後位については米英共に過半数の人が容認しているのに対し、中位が米英で大変な差がある (cf. 小西 2003, p.68)。これについての解答は、今後の課題としたい。

7. 最後に

① 「現在完了形」と「現在完了進行形」のイメージについて

次のような説明が興味深い。

- **I've had girlfriends.** (ガールフレンドがいたことはあります。)

現在完了形 (**have**+過去分詞) が「経験」を表している。現在完了形のイメージは「(今に) 迫ってくる」。この形が経験を表すのは不思議ではない。経験とは過去の出来事を「~したことがある」と、今に引きつけて述べること。「(今に) 迫ってくる」現在完了形のイメージにピッタリである。

—大西 2022, 9月号 p.51

- **I've always wanted to see a musical in London.**

(私はずっとロンドンでミュージカルを見たかったです。)

現在完了形のイメージは「(今に) 迫ってくる」。この文では **wanted** という状態が過去から今に向けて迫ってくる感触である。「ずっと欲して

いた」である。

—大西 2022, 7月号 p.55

・ I've been doing Yuriko's job for a few months now.

(私はユリコの仕事をもう数か月、ずっとしています。)

現在完了進行形が使われた文。この形は「(今に) 迫ってくる」現在完了形と、生き生きとした行為を描写する進行形のハイブリッド。過去から今に至るまで「ずっと～している」という表現。この文ではずっと doing, doing, doing しているということ。前置詞 for は「期間」を表している。for は「範囲」一般を表すことができる前置詞。

—大西 2022, 9月号 p.71

まさにネイティブ・スピーカーの感覚を取り入れた有益な説明である。ニュアンスの微妙な違いまで説明されている。上述の「アメリカ人は現在完了形を使うところを過去形で代用する」という説明と比較検討してみよう。アメリカ人は傾向として(統計上は)現在完了形の代わりに過去形を使うことがイギリス人などよりも多いということが言えそうである。“Simple is best.”という考え方がより浸透しているということであろう。ということは、現在完了形を用いなくても過去形を用いて上述のような現在完了形のイメージ(ニュアンス)を包含したような発話ができるということを意味している。現在完了形に特有の「(今に) 迫ってくる」というイメージがどれくらい損なわれるかということは、あまり定かではない。もし完全に代用可能であるとするならば、実際のコミュニケーションにおいてはより simple な言い方を選択できるようになり、英語教育上(語用論上)大変有益である。「形が変われば意味が変わる」という認知言語学の考え方からすれば、やはり「(今に迫ってくる)」という「切迫感」が違うということになる。ただし、このような感覚は人によっても異なるので、一概にこうだと断定することはできない。例えば、

I've studied English for seven years.

(私は7年間ずっと英語を勉強してきた[これからもするつもりでいる])
と

I've been studying English for seven years.

(私は7年間ずっと英語を勉強してきている[これからもするつもりでいる])

との間には、筆者にはほとんど差がないように思える。

ということであれば、この場合においては、話者の好みやその時の気分などによっても「現在完了形」を使用するか「現在完了進行形」を使用

するかが左右されるということになる。要するに、理論上（意味論上）は微細な違いはあるにせよ、語用論上（実際のコミュニケーションにおいて）は無意識のうちに両者を使い分けている可能性が大であるというのが私見である。さらに一言言えば、アメリカ人が現在完了形の代わりに過去形を使うと言っても、それは「完了（結果）」・「経験」用法までのことである。つまり、「継続」用法は切り離して考えなくてはならないということである。なぜならば、単に過去形で発話してしまっただけでは、現在完了形の「継続用法」の意味は表現できないからである。

② 現在完了形の「用法」について

英語の教科書および学習参考書、英文法書などにおいては、従来から現在完了形には「完了（結果）」・「経験」・「継続」という3つないし4つの用法があるとされてきた。Bolingerのように、現在完了形は1つの文法項目である以上、用法も1つであると主張する研究者もいる。しかし、筆者はこの2つの説の両方ともに与しない。少しでも simple な方がよいということであれば、2つの用法があるとすべきである。つまり、「完了（結果）」・「経験」用法は「完了」用法として1つにし、それと「継続」用法の2つに分類するということである。上述の大西の説明のようなアプローチを使うならば、「(今に) 迫ってくる」というイメージ1つでもって「完了（結果）」・「経験」・「継続」の3ないし4用法とも説明は可能であるが、「継続」用法だけは過去形で代用不可能であるので、どうしても2つの用法が必要になる。

ここでもう一度、「ラジオ英会話」に登場してもらおう。

ある一日の Lesson からの引用である。

エモリさんとシンディが俳句クラブに来ています。

Cindy: Oh, it's stopped raining!

Mr. Emori: Yes, it's rare to see the blue sky these days.

Cindy: Since the rainy season has started.

Mr. Emori: That's right. But it will be sunny tomorrow too.

How about going hiking?

Cindy: That's a good idea. I was thinking the same thing.

Why don't we go to Mount Takao?

Mr. Emori: I haven't been there in years. I'd like to write haiku there.

Cindy: Oh, let's write haiku and hike at the same time

Mr. Emori: Nice one, Cindy!

シンディ: あら、雨がやんだわ!

- エモリさん： ええ、近頃では青空が見えるのは珍しいですね。
- シンディ： 梅雨が始まりましたからね。
- エモリさん： その通りです。でも、明日もまた晴れるでしょう。ハイキングに出かけるのはどうでしょうね
- シンディ： それはいい考えだわ。私も同じことを考えていたところですよ。高尾山に行きませんか？
- エモリさん： そこにはもう何年も行っていませんでした。そこで俳句を詠んでみたいですね。
- シンディ： あっ、俳句（ハイク）を詠むのと、ハイク（ハイキング）を同時にやりましょう。
- エモリさん： うまいことを言いますね、シンディ！

Grammar and Vocabulary

文法と語彙を確認しよう

1. 現在完了形のイメージ 1

Oh, it's stopped raining! (ああ、雨がやみました！)

この it's は it has の短縮形（正式名称は、縮約形）。現在完了形（have + 過去分詞）です。現在完了形は「(今に) 迫ってくる」がイメージされる形。この文は、遠く離れた過去に出来事が起こっているわけではなく、「ああ、やんだ」と視線は「今＝手元」に向かっています。

2. 現在完了形のイメージ 2

I haven't been there in years. (そこにはもう何年も行っていません。)

この文も現在完了形を使っています。「今に至るまで」と視線が過去から現在に向かっていることがわかりますね。「継続用法」と言われる形ですが、用法は覚える必要もないでしょう。現在完了形はいつも「(今に) 迫ってくる」のですから。

—大西 2023, 6月号 pp. 12-3

◎ ポイント

このレッスンにおける放送の中で、ネイティブ・スピーカーの講師の先生が、以下のようなコメントをなさっておられた。「会話において、アメリカ英語では、現在完了形が退場しかかっている。ただし、上述の2. 現在完了形のイメージ2の文においては、アメリカ英語でも使われている。」とのことである。つまり、この文は過去形では代用不可能だということである。換言すれば、「現在完了形」の「継続用法」は、アメリカ英語でも普通に使われているということ。もしそうだとすると、「現在完了形」は「2用法」にまではコンパクトにまとめることが可能だということである。筆

者の主張である「継続用法」だけは別物だとする考え方と軌を一にする。筆者の主張の裏付けとなる貴重なコメントである。

③ 今後の研究について

本論文において、筆者が一番主張したいことの要点を述べてきたが、まだ十分に考察ができていない点もある。今までと同様に、今後も統語論的アプローチ、意味論的アプローチ、語用論的アプローチのそれぞれに十分に目を向けながら、バランスのとれた多角的な言語研究を進めていきたいと思っている。さらにそれらの成果の上に立って、実践的な英語教育への応用がすみやかになされれば理想的である。なお、「現在完了形」に関してより詳細に理論的な側面から考察した論考に伊関（2022）がある。是非、参照されたい。

謝 辞

本研究を行うにあたり、鶴岡工業高等専門学校元非常勤講師の Phillip J. Robberson 先生に貴重な御助言を頂いた。ここに厚く感謝の意を表する次第である。

*本論文は、第30回 全国英語教育学会 長野研究大会（2004年8月7日 於：JA長野県ビル）における口頭発表の原稿を加筆・修正したものである。

参 考 文 献

辞典

井上永幸(他編)『ウィズダム英和辞典』東京：三省堂,2003.

小西友七(他編)『ジーニアス英和辞典 第3版』東京：大修館書店,2001.

竹林滋(他編)『新英和中辞典 第6版』東京：研究社,1994.

田中茂範(他編)『Eゲイト英和辞典』東京：ベネッセコーポレーション,2003.

中右実(訳)『意味と形』. 東京：こびあん書房,1981.(Bolinger, D. *Meaning and Form*. London: Longman. 1977.)

安井稔(訳)『現代英文法総論』東京：開拓社,1994.(Declerck, R. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha. 1991.)

- 江川泰一郎『英文法解説－改訂三版－』東京：金子書房,1991³.
 _____ . *A New Approach to English Grammar*. 東京：東京書籍,1997¹⁴.
 山口登・笈壽雄(訳)『機能文法概説－ハリデー理論への誘い－』東京：くろしお出版,2001.(Halliday, M. A. K. *An Introduction to Functional Grammar*. London: Edward Arnold. 1994².)
 伊関敏之『英語の研究と教育－ことばの世界への誘い－』東京：成美堂,2011.
 _____ . 「英語の現在完了形に関する一考察－その統語論的・語用論的特徴－」『北見工業大学人間科学研究』第16号,2022.
 柏野健次『テンスとアスペクトの語法』東京：開拓社,1999.
 河上誓作(編著)『認知言語学の基礎』東京：研究社出版,1996.
 Leech, G. N. (1987²) *Meaning and the English Verb*. London: Longman.
 中尾俊夫『英語発達史』東京：篠崎書林,1979.
 _____ . (児馬修・寺島迪子編)『変化する英語』東京：ひつじ書房,2003.
 中尾俊夫・児馬修(編著)『歴史的にさぐる現代の英文法』東京：大修館書店,1990.
 大西泰斗(編)『NHK ラジオ英会話 ハートでつかめ！英語の極意7月号・9月号』東京：NHK 出版,2022.
 _____ . 『NHK ラジオ英会話 ハートでつかめ！英語の極意6月号』東京：NHK 出版,2023.
 太田朗(1954)『完了形・進行形』東京：研究社.
 鈴木英一・安井泉『現代の英文法 第8巻 動詞』東京：研究社,1994.
 田中茂範・佐藤芳明・河原清志『チャンク英文法』東京：コスモピア,2003.
 Turney, A. 『英語のしくみが見えてくる－英語のクセをつかめ－』東京：光文社,1988.